

隠退教師の住宅を訪ねて シリーズ 第3回

九州キリスト教社会福祉事業団

訪問者：シルバーホーム「まきば」施設長 鈴木 卓也

6月22日、愛知県日進市から770kmの距離にある、大分県中津市の社会福祉法人九州キリスト教社会福祉事業団を訪問しました。事前に多田一三理事長に了解をいただいておりますと、いすみの園・富永健司施設長、聖愛ホーム・袖潤美枝子ホーム長、堤健生チャプレン、森光徳課長が快く迎えてくださいました。

九州キリスト教社会福祉事業団は1974年、九州教区諸教会が運営する幼児保育の動きを社会福祉法人として包括する目的で、九州教区の祈りによって生まれました。1978年、特別養護老人ホーム「いすみの園」の開設によって、老人福祉にも携わる複合的な法人へと発展しました。

戦後の復興期、福岡県津屋崎教会の隣接地に、隠退教師とクリスチャンのための住宅「聖愛ホーム」ができましたが、建設から40年が経過、老朽化も進んだため、これを引き継ぐ形で、1995年、「いすみの園」の隣接地に「ケアマンション聖愛ホーム」を設立、ここに行政が後押しするケアハウスの建設と隠退教師のための住宅継承という、2つの目的を統合して「聖愛ホーム」の運営が始まりました。

「聖愛ホーム」を案内されて驚いたことは、有料老人ホーム顔負けの豪華な造りとお洒落な備品で、隅々に至るまで「もてなしの心」が溢れていることでした。建物の中には立派なチャペルもあり、各地から移って来られた隠退教師や信徒の方たちが、地域の皆様と溶け込んでゆっくり生活を楽しむことができる理想的な住まいだと感じました。施設が「隠退教師であれば喜んで迎える」という姿勢を持っていることも、素晴らしいことだと思いました。



森 課長 鈴木

聖愛ホーム 袖潤 ホーム長
いすみの園 富永 施設長
堤 チャプレン



▲シニア・レジデンス いすみの森

このような形態が可能になったのは、地域行政のキリスト教に対する寛容な姿勢や認識の豊かさもさることながら、これまでに培われた事業団への信頼が基盤にあったものと思われれます。

その他にも、広大な敷地の中に、ショートステイ、ディサービスセンター、グループホーム、訪問看護ステーション、訪問介護ステーション、障害者生活支援センター、在宅支援センター、大分県地域介護実習・普及センター等々、幅広い事業所が点在し、地域福祉の大きな役割を担っています。加えて、医療事業部もあり、クリニックやリハビリセンターを併設しているのには驚きました。

2006年、池を挟んだ近隣の土地に、戸建有料老人ホーム「シニア・レジデンスいすみの森」八棟を開設、ここにも隠退教師ご夫妻はじめクリスチャンの皆様が、豊かな自然に囲まれて静かな暮らしを楽しんでおられます。

施設内では毎週、「いすみの園」、「聖愛ホーム」、「いすみの森」の3箇所、それぞれ礼拝が持たれ、合わせて30~40人の皆様が祈りを共にしておられます。加えて、職員礼拝、クリスチャン入居者の自主運営に

よる朝禱会があり、充実した信仰生活が営まれています。

「聖愛ホーム」開設からこれまでに、5人の隠退教師と8人の牧師夫人が入居されました。そして今も、「聖愛ホーム」に4人、「いすみの森」に2人の隠退教師と牧師夫人が信仰生活を続けておられます。

昨年、チャプレンとして着任した堤牧師は、礼拝説教を始め、入居者・家族・職員に至るまでのカウンセリングなど、毎日忙しく奉仕しておられます。中部教区には馴染みの方が多いと思いますが、以前と変わらない明るい笑顔で、尊い働きに従事しておられますので、ご安心ください。



◀ 聖愛ホームのチャペル

長い時間に亘り、4人掛かりで広い施設をご案内いただき恐縮しました。この訪問で感じたことは、隠退教師の住宅という目的が、地域福祉と一体になって理想的な形で成り立っていること。多くの皆様の祈りによって維持されていること。そして何より、この成長を続ける福祉施設に、主の栄光が満ち溢れている姿を確認することができて感動しました。

私たち、隠退教師の住宅確保を目指す者たちにとって、「いすみの園」を中心とした総合老人福祉施設、九州キリスト教社会福祉事業団の姿は、一つの模範として、ここから更に深く学んでいく必要があることを課題として帰って来ました。